

10月14日（水）本年度第13回（通算 第2795回）

「 新入会員卓話 」

担当/プログラム委員会

18時30分～釧路プリンスホテル

◆お客様と来訪ロータリアン

◆メーカーキャップ

◆出席報告【会員総数 73 名 免除 6 名 出席計算に用いた会員数 73 名】

本日の出席率 出席者 25 名 メーカーキャップ 0 名 出席率 37.3%

前々回の修正出席率 出席者 25 名 メーカーキャップ 0 名 出席率 34.7%（会員総数 72 名）

◆ニコニコ献金（今年度累計 192,000円）

- ・新入会員卓話、頑張ってください。宜しく ～佐渡 正幸君
- ・新入会員の皆様、本日の卓話お願いします ～中島谷友 一朗君
- ・保護司仲間のゆりかちゃん、今日は宜しくお願いします ～石井 東洋彦君
- ・寒くなりました。お体には気をつけて下さい ～小野寺 英夫君
- ・結婚記念日ありがとうございます ～小松 亮次君
- ・新入会員卓話、頑張ってください ～迫田 武君
- ・遅れましたが、誕生日ケーキありがとうございます ～中嶋 嘉昭君
- ・本日の卓話よろしくお願いします ～濱屋 宏隆君、安田 正二君
- ・新入会員の皆様、本日は頑張ってください ～本間 弘人君
- ・25日、保護司会のコンサートでソロを歌います ～松田 有律香さん
- ・入会させて頂いて有難うございませぬ～山岸 弘典君

◆会長挨拶

《佐渡会長》



皆さんこんばんは、本日も例会にお越し頂きまして誠にありがとうございます。

今日は、急に寒くなったせいか出席者が少し少ないのですが、新入会員卓話と言う事で、本年度新しく5名の仲間が入った中で、今日は3名の方から卓話を頂く事になっております。

私の今年の目標として、会員増強、拡大をしっかりとやって行きたいと言うのがその重点目標の一つとなっている訳でございます。ロータリークラブを活性化して行く為には、新しい血がどんどん入って来て仲間が増え、そして色々な会話が增え、そして街道が充実して行くと言うその連鎖を常に毎年怠ることなく続けて行かなければならないと思っております。

私も48歳と言う事で、人生も半ばを過ぎたと思っておりますが、32歳でこの北ロータリークラブに入会させて頂き、早いもので16年が経ちました。その中で、おそらくロータリークラブにその年に入会していなければ、例えば、田村先輩、松原先輩の様な自分の父親位の年齢の方と、親子では無く、ロータリーあるいは色々な生活の部分において、お話しすることやお酒を酌み交わす事も無かったのだと言う思いに駆られた時に、ロータリ

ークラブと言うのは、本当に幅広い中での良質な人間関係を創る場であり、そしてその良質な人間関係の場から自分が磨かれ、そして世の為に生きて行く自分と言う者をしっかりと見直す素晴らしい機会であると思います。

今、世の中でよく言われていますが「人は生きているのではなく、生かされている」と言う言葉を耳にしますが、まさしく私もこのロータリークラブのメンバー皆様と一緒に活動して行く中で、色々なご意見を頂いて、そして社会奉仕する重要性和喜びと言うものを感じた中で、本当に自分は生かされていると思っています。

そして今日は、新しい仲間の3名の卓話と言う事で、その3人がこのロータリーのステージの上で、どのようなお話をしてくれるのか楽しみに思っておりますし、その他のメンバーの方におかれましては、その3名のお話を聞いたことが無い方が多いと思いますので、是非とも温かい目で、そしてこれから新入会員を育てて行くと言う気持ちで聞いて頂ければと思います。

来週から地区大会と言う事で、旭川に行つてまいります。その地でロータリー2500地区がどのような方向に進んでいるのかと言う部分をしっかり見極め、そして来月はモンゴルのフレロータリークラブがいらっしゃいますので、正に国際交流、国際親善、世界平和と言う部分を、このプリンスホテルの会場で味わえると言う事は大変素晴らしい事由かなと思いますので、皆様のご協力をお願い申し上げましてあいさつとさせていただきます。

本日もどうぞよろしく申し上げます。

パーソナルボックスヘナシ

◆幹事報告

《中島谷幹事》



回覧として3点

1. ロータリー米山記念奨学会より「第15回米山功労クラブ感謝状」が届いております。
2. 釧路北RACより10例会案内。
3. 釧路市女性団体連絡協議会より機関紙、第19号。

報告（口頭）

- ・16日～18日まで旭川で行われます「地区大会」に17名で参加してまいります。
- ・モンゴルフレールRC合同例会の件
モンゴルフレールRC合同例会、現在22名来釧予定。
11月2日（月）17：15 釧路空港着、ホテルへ移動し、19：00～例会を開始する予定になっています。セレモニー終了後、会場は移動せずに21：00まで懇親を深めて頂きます。
2次会については21：30～会場を移動して行う予定になっています。
送迎、例会、懇親、市内観光など部会を編成し、会員全員でおもてなしをしていきたいと考えていますのでご協力をお願い致します。
- ・先日の理事会にて、山岸会員の職業分類を「美容」から「理容」に変更しております。

「 新入会員卓話 」

クラブ管理・運営部門 平澤理事

本日はプログラム委員会担当の新入会員卓話となっております。

本日は大友委員長所用の為欠席となっておりますので、代読いたします。

7月よりスタートしました佐渡年度でございますが、上期の3か月あまりですすでに6名の新入会員が入会されています。本年度会長の重点目標でもあります、出席率の向上、会員増強にも通じる会員相互の理解をもっと深め、より親睦を深める為には、新入会員卓話はとても重要なプログラムと考えております。魅力あるプログラムを創意工夫を凝らして考えると言う観点からも、異業種の集まりでもあります、ロータリークラブ、その様々な業種のお話し、様々な基礎を聞ける重要な機会でもあります、新入会員卓話を楽しみにしている会員の皆さんも多くいらっしゃると思います。先月行われた新入会員歓迎会において、スライドによる、自己紹介、自己アピールも終えたばかりと思いますが、仕事の話、プライベートな話、なんでも結構でございます。

本日は5名の新入会員の中から、安田会員、松田会員、濱屋会員の3名からお話を頂く予定となっております。8分と言う限られた時間ではございますが、よろしく願いいたします。

安田正二君



こんばんは。特定社会保険労務士の安田でございます。本日は卓話と言うことで、先目、新人会員の懇親会の際に、私から生い立ち等をお話しさせて頂きましたので、重なる部分があるかもしれませんが本日は宜しく願い致します。

氏名は安田正二。「ただし」と言う漢字に漢数字の「に」と書いて「しょうじ」です。

会長にも聞かれたことがあります、私の名前が正二なので、兄の名前は「しょういち」と思われます。

残念ながら兄は史明（ふみあき）と言いう名前前で1歳年上の兄でした。

私の生年月日は1970年（昭和45年）3月15日で現在45歳です。職業は特定社会保険労務上で、29歳の時に浦見町にて独立開業し、開業歴は16年になります。

出身地等は、生まれも育ちも釧路で、唯一、大学に進学した時の4年開と消費税を学びたく1年間プラスした計5年間のみ東京にて在往しておりました。幼稚園は、昔の釧路目進小学校（現在の釧路小学校）の前にあった「めぐみ幼稚園」に入園し、先程のお話させて頂いた兄が1人おりました。

私の人開形成、そして現在に至るまでには、この兄の存在が非常にあります。私が幼稚園の年中で、秋頃、兄は突然お腹が痛み始め、食べたものが受け付けられない状態となり、それが1ヶ月程続きました。近所の個人病院にて診てもらっていましたが原因不明でした3ヶ月程が経過し、精密検査をするために釧路市立病院に入院したところ、そこで小児癌であることが判明しました。

まだ幼い自分ですから、ことの重大さは全く分かっておりませんでした。兄は抗がん治療等をしておりましたが、全く効果が無く、担当医からは東京の癌センターに紹介状を書くので、そこでレーザー治療を受けて見たらと言われたそうです。その当時に開発された先進医療で、早期発見であるならば切除の可能性があるということでした。それを受けて家族全員で東京に行きました。その日は私の誕生日でした。何が起きているのかわからない自分にとってみると、自分の誕生日はないがしろにされた感じでした。東京行きの飛行機の中で父は「お前の誕生日だから飛行機に乗せたんだよ」と言っていたことも鮮明に覚えてお

ります。飛行機が羽田に降り、救急車がスタンバイしており、東京の癌センターに到着するまでに赤信号を突き抜けてサイレンを鳴らしながら走る中、自分は大喜びだったことも覚えております。東京の親戚に半年近くあずけられておりましたが、小学校の入学もあったので、一人で東京から釧路まで、私はマルコポーロの気持ちで、あの当時移動時間は30時間だったと思いますが釧路に戻ってきました。降りたところには祖母が迎えに来ており、その後は祖母や叔父にあずかってもらいました。いよいよ小学校の入学式を迎えた日、釧路は希にみる猛吹雪でした。無事に入學式を終え帰宅した直後、突然兄が亡くなったとの一報が入ってきました。私は、兄が亡くなり、自分達がいた部屋の静けさが、何がどうなって、何がどのようにすべきなのか等、全く考えることができませんでした。アニメのドラえもんなど、机から、いつか兄が生き返ってくると思っていました。色々その後から両親に聞いた部分もあります。例えば兄の治療費が膨大で、このままでは家族が生活をし得なくなる可能性もあるので、兄が亡くなった場合、兄の体を研究のために国に提供することで全額補助を受けたこと等。亡くなった者は当然かえってはきません。

人生には限りがあるけど、このことは自分自身、精一杯生きようと思いました。

兄の分も含め、二人分の人生を送ろうと思ひ今目に至っております。ここで皆様方とお会いしたこともあります。色んなことにチャレンジして今後とも頑張りますのでどうぞ宜しくお願い致します。

松田有律香君



あらためまして、皆様お晩でございます。本日の卓話で何を話そうかずっと考えておりました、本当は楽しい話をしたいと思っております。たとえば先ほど佐渡会長にも話しましたが、先日釧路そば商組合のそばスタンプラリーで24店舗全店舗制覇した苦労話とか面白話をしようかなと思っております。本来であればこのような場所でお話すべきものではないかもしれませんが、先日弊社の工事部長のご息子が若くして病気で突然死をしてしまい、親より先に逝くことほど親不孝はないと思ひ、先日の新入会員歓迎会で軽い自己紹介をさせていただきましたが、親に感謝の意味も込めてまた改めて皆様に改めて自己紹介をしたいと思ひましたので宜しくお願い致します。

わたくし松田有律香1972年、昭和47年7月15日巖島神社のお祭りの日に生まれました。難産だったのですが、当時城山十字街に産婦人科がありそこに巖島神社のおみこしがワッショイと来たときに、おぎゃーと生まれたらしく巖島神社の申し子か！？といわれお祭り騒ぎが大好きな子どもでした。昔から外に出て歩くのが大好きで、今でも鉄砲玉のところがありまして、43歳の今にもなっても門限が24時と決まっております。そうでないと、毎日朝まで出てあるくかもしれないと言われております。

わたくしはただ今マツダ電気株式会社の代表取締役専務という役職を頂いておりますが、マツダ電気はわたくしの父の母、祖母が昭和34年離婚したときに女の細腕で、たくましかったのですが、別れた旦那さんの仕事のつてを頼り、電線を拾って歩いたり、今でいうところのコールマイン、太平洋炭鉱の電球取り換えなどをして皆様のご協力を得ながら大きくなった会社でございます。父の妹は北海道で女性第1号の電気工事士の資格を取ったりと、わたくしも祖母・叔母この強い女性2人につづけて何かできたらと思っております。

話は戻り、わたくしの名前のゆりかは当て字になっておりました、有名の有、行人偏の法律の律、香水の香でユリカとなっております。この博愛医院の育児日記の一番最初にはカタカナでエリカとなっておりまして、ところが祖母が初孫で心配だったのか易者さんに見てもらったところ、3歳まで病気が絶えない名前ということで今の名前になり、こちらは幸福に一生縁がるという名前だそうです。しかし、20歳過ぎにその易者さんにお会いしたときに、「いや〜わしはなんでこんな色気のナイ名前をつけたかな。この名前は響きこそ女の名前だが、画数は男の名前」と言われました。・・・そのせいでしょうか！？

今、独身です！！ちなみに、私の名前が替えられたということもあり、妹の名前は最初から易者さんに漢字をつけてもらい、あきこというのですが、安い希望の子と書いてあきこと呼びます。そう呼ぶと怒るので、安心と希望の子と覚えてあげて下さい。私も妹も家族、祖母、いろんな人に愛情をかけてもらい素敵な名前をもらい大事に大事に育てられたと思っております。

こちらの、育児日記の最初のページに「白銀（シロカネ）も 黄金（クガネ）も玉も何せむに まされる宝 子にしかめやも」という山上憶良の万葉集がかかれております。これは金銀宝玉 どんなものも子どもに勝る宝はないという意味の句です。私も妹もそのように大事に育てられてきました。しかし、わたくしは残念ながら結婚もしておりませんし子どももおりません。次の時代につなぐものがない・・・ということもありまして。まちづくりということを考えて時、釧路青年会議所に入会してから、社会開発という面も次の釧路を育てていく大事な部分ではないかと思うようになり。釧路青年会議所時代に学んだことをわたくしなりに、この地域に返せたらと思ひ、子ども共育支援「ミライエ」というボランティア団体の立ち上げから参加させて頂いたり、また釧路保護司会の保護司として活動させていただいております。これから先どうしよか、というときにまた一つの地域貢献ということで、釧路青年会議所時代の同期でもあり今年度の会長でもある佐渡さんに声をかけて頂き、また一つこの地域のためになり道筋の一つ教えて頂いたような気がします。まだまだ学ばなくてはならないことは沢山ありますが、最近なかなか出席もかなわないこともあり、長い目で見て色々教えて頂けたらと思ひ皆様に改めて宜しくお願い致しますという挨拶で本日の卓話を締めさせていただきます。それではありがとうございました。

濱屋宏隆君



本日は私が行っている「銀のさら」という宅配飲食業の仕事についてお話をさせていただきます。私の本業は生コンクリートの製造販売などですが近年の公共事業の減少等、取り巻く経済環境の厳しさから事業の多角化を目指すこととしました。多角化にあたり中長期的に自社開発で行う新規事業、一方で短期的に始めることができるビジネスパッケージ化されたフランチャイズ事業を検討することとしました。そのフランチャイズビジネスが『銀のさら』になります。銀のさらは紹介業者から話を聞くまで存在すらも知りませんでした。北は北海道から南は九州沖縄まで全国に250店舗以上展開している宅配すし業界では全国一位の店舗数を誇っていました。様々なフランチャイズビジネスを検討しましたが事業性の高さは勿論のこと、大事にしたのはお役にたてるかどうかという価値基準でした。

銀のさらの決め手になったのはこれからの高齢社会において間違いなく宅配事業は社会のお役にたてること。そしてもうひとつが『地元の美味しい食材はFC加盟店が商社となってFC本部に販売することが可能』という契約内容でした。

私の会社は港湾、空港、道路と社会資本整備にかかわる事業を主としてきた中で、ニュースキャスターが無駄な公共事業、バラマキという乱暴な言葉で地方の現状を顧みず発言することに嫌悪感を感じてました。そうした中、もしこの地域の食材を道路や空港、港湾などの社会資本を活用し全道、全国に流通させることができればそうした発言を否定できるという思いもあって新規事業に取り組むこととしました。

現在、地元食材としてはイクラ、ウニ、タコ、サバなどがこの地域から全道、全国に発信されています。あわせて高齢者のお役にたちたいという思いも実現できました。桶と一緒にアンケートを回収してのですが『でかけれない寝たきりの主人と美味しい食事ができました』とか『体の不自由な家族の誕生日を祝うことができました』など大変ありがたい言葉をいただいております。

まだ事業としては赤字ではあるのですが、こうしたお客様の喜びに応えるためにも今後も頑張る事業継続していきたいと考えています。

最後になりますがロータリーの掲げる職業奉仕がどういったものか、わからない自分ですがそうした部分をより深く理解しながら社業を通して社会のお役に立てれるよう微力ですが頑張っまいますのでご指導のほど、よろしくお願ひします。ご清聴ありがとうございました。